

ハイチ地震から1年

— 2団体が支援活動を報告 —

2010年1月12日、ハイチ共和国を襲った大地震から1年——。コレラの流行や大統領選挙の混乱などで復興への道はまだ厳しい。新宗連と関係深い国際支援団体アムダ(AMDA)とジェン(JEN)が、それぞれハイチでの活動や現状、展望を報告した。

AMDA

復興へ向け義肢支援

被災女性が来日、神戸も訪問

特定非営利活動法人アムダ(AMDA、菅波茂代表)は1月20日午後2時から、東京・杉並の立

行った。

行った。また、「市民参

AMDAは、昨年1月12日に発生したハイチ大地震に際し、世界7カ国からAMDA多国籍医師

援活動を行い、その後、ハイチ復興支援として、義肢支援活動を開始、現



「外交官になりたい」と夢を語るガエルさん(左)と通訳するフレデリック氏(右)



義足を装着した患者らと八尾氏

団を派遣し、緊急医療支援活動を開始、現

現在、ハイチでは昨年10月から流行し続けているコレラに対し、医療支援のため、医師団を日本から派遣し、コレラ患者の診察活動、感染予防の啓発活動も行っている。

今回の報告会には、義肢支援活動により義足の提供を受けたハイチ女性のガエル・エズナールさん(18歳)とAMDA

加型人道支援外交、ハイチ大地震復興支援スポーツ親善交流事業として、ハイチ、ドミニカ共和国、日本の3カ国の青少年が相互理解を深めるため、サッカーの試合をドミニカで開催した。



AMDAからのプレゼント（スポーツシューズ）と子どもたち

調整員のマック・ケビン・フレデリック氏、義肢装具士の八尾直毅氏、代表部参事の難波妙氏が出席した。

ガエルさんの来日は、震災障がい者の経験を分かち合うことで復興の励みになればと考え、阪神淡路大震災被災者の人々との交流の機会を持った。AMD Aが招聘したもの。14日に日本に到着したガエルさんは、15日には岡山、16日には神戸で行われた義肢支援事業報告会見と支援者との交流会にも参加した。

報告会では、ガエルさんにハイチ地震の被災状況や辛いときを思い出させるような質問が繰り返されないよう、フラッシュバックを防ぐために、事前のインタビュー資料が配られた。

難波氏、八尾氏がハイチでの支援活動を、映像

を交えて報告し、フレデリック氏が新しく設立されるAMD Aハイチ支部の支部長に就任し、継続して支援を続けることを報告。

ガエルさんは、AMD A関係者や支援者への感謝を述べ、神戸訪問について「（復興した神戸を見て）本当に地震があった場所なのかとびっくりした」と感想を話した。質疑応答では、会場からの「今後チャレンジしたいこと、夢は何ですか」との問いに対し、ガエルさんは力強く「外交官になりたい」と答えた。

ハイチ地震から1年が経過した今、参加者はガエルさんの来日を通し、「震災の悲惨さとそれを乗り越えて生きていく被災者のことを忘れない」というAMD Aからのメッセージを受け取る機会となった。